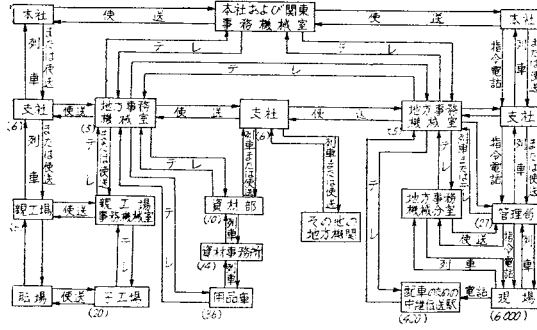


図-1 事務処理機構



なお下級機関の自己統制を優先させる集権的分権体制が、オートメーションによって実現できる。

国有鉄道が昭和 31 年 4 月事務近代化委員会を設置し

表-1 おもな使用機械表

電子計算機 大型	1 組 (本社用)
中型	13 組 (本社 1 組 6 支社各 2 組)
配車用電子計算機	6 組 (6 支社 1 組宛)
パンチ式計算機	6 組 (同上)
スリップ式会計機	98 台 (27 管理局用)
テレタイプ	239 組 (約 80 駅区)

て管理とその事務についてオートメーションを実現しようとしている理想は上述のようであるが、これが、国有鉄道の組織で具体的に実現された際の事務処理機構およびその機械のおもなものは 図-1 および 表-1 のようである。

これによつて約 2 億枚の基本カード換算業務量を処理する予定である。オートメーションのための資本支出概算 44 億円、平年度損益支出は約 10 億円であろう。

エカフエ道路安全セミナー

星 埜 和*

エカフエ道路安全セミナーは 1957 年 5 月 13 日から 23 日まで東京で開催された。

このセミナーは正式に Seminar on Engineering and Traffic Aspects of Highway Safety と名づけられ、エカフエ内陸運輸委員会の道路小委員会が担当し、1953 年に始めて企画されたのであつたが、いろいろな事情に妨げられて、のびのびになつていたところ、1955 年 11 月マニラで開かれた第 3 回道路小委員会に出席した日本代表 吉田 越氏を通じて東京開催の申入れがあり、日本政府がこれを受諾したことによつて開催が確定するに至つたものである。

エカフエ (ECAFÉ) はすでによく知られているように Economic Commission for Asia and the Far East の略称であつて、国連の Economic and Social Council の下部機構としてアジアおよび極東における戦争によつて荒廃した諸国の経済復興を援助する目的で設けられたものであるが、いわゆるエカフエ地域に含まれる国々はアフガニスタン、ブルネイ、ビルマ、カンボジャ、セイロン、中国(台湾)、マレー連邦、ホンコン、インド、インドネシア、日本、韓国、ラオス、ネパール、北ボルネオ、パキスタン、フィリピン、サラワク、シンガポール、タイ、ベトナムの諸国であつて、その中で国連に加盟している国々にオーストラリア、フランス、オランダ、ニュージーランド、ソ連、英国、米国の関係国が加えられてエカフエの正式構成員をなしており、ホンコン、マレー、英領ボルネオなどは準構成員として諸行事に参加す

ることができることになつている。

今回のセミナーはこのエカフエ地域内における自動車交通の発達にともなつて、その特殊な環境条件のもとで道路交通の安全を確保し、交通事故の軽減をはかるため情報資料を交換収集し、技術面と行政面とから有効な対策を研究するのが目的であつたから、わが国では建設省を中心として運輸省、警察庁などの協力によつて早くから準備が進められ、道路技術および道路行政に関しては道路協会内に設けられていた交通工学委員会がとりまとめた原案にもとづいて公式報告書が作成され、会期に先立つてエカフエ事務局に提出された。参加各国からもそれぞれ相当の冊数に達する報告書が会期に先立ちあるいは会期中に提出された。

1957 年 (昭和 32 年) 5 月 13 日午前 10 時、赤坂プリンスホテルの大広間においてセミナーの開会が直せられた。参加者はビルマ、中国(台湾)、ホンコン、インド、インドネシア、日本、韓国、フィリピン、ソ連および米国の 10 カ国代表 29 名のほか、オブザーバー 8 名、エカフエ事務局員 3 名、顧問 1 名で、まずエカフエ事務局長 C.V. Narasimhan 氏に代り運輸部長 M.S. Ahmad 氏の開会挨拶、建設政務次官小沢久太郎氏の歓迎挨拶につづいて、議長および副議長の選挙が行われ、米田正文博士(日)が議長に、L.D. Wylie 氏(米)と M.M. Chudasama 氏(インド)が副議長にそれぞれ全会一致で選ばれた。次にセミナーの運営方針について討論が行われた結果、事務局の原案にもとづいて次のような 4 作業班を編成しそれぞれの課題ごとに報告書を取りまとめることが決定

* 正員 工博 東京大学教授、生産技術研究所

された。

作業班	課 題	班 員
A) I.	行政機構とその運営	L.D. Wylie H. Yamaguchi
VII.	訓練、教育および弘報活動 (道路利用者の心理学、自動車自転車者の運転者および歩行者の教育、学校教育、交通法規の徹底、弘報教育の効果)	Y. Zien E.d. Santos Y. Park J.G. Simpson N. Amanullah M. Ohsawa
B) II.	将来交通量および自動車登録台数の予測 (交通調査の方法、登録台数の増勢、現在および将来の交通需要の見とおし)	R. Maslog K. Fujimori N. Okuda T.K. Ong R. Slamet N. F. Horoshilov
VI.	交通計画および交通操作の経済性 (所要経費の額と便益額の分析、道路改良が事故、燃料、車両タイヤの保守におよぼす影響、有料道路)	A.N. Maunin I.S. Ramos N. Katahira K. Han
C) III.	事故統計とその利用 (事故の記録報告の方法、統計の整理、原因調査、事故多発点の決定、事故におよぼす道路改良の効果)	A. Morrison T. Nakahara R. Tanaka K. Iwasaki U. Margono P.Y. Woo
V.	交通規制 (交通標識、信号、記号、車両運動の制限、駐車荷扱の制限、規制方法)	
D) IV.	道路および交差点の容量 (地方道路の容量に影響する因子、交差点および街路の容量、各種道路の計画と設計)	T. Yoshida K. Hoshino T. Takano H.S. Kwee M.M. Chudasawa C.M. Wang

各班はそれぞれ 5 月 13 日午後から作業に入り、5 月 21 日中に結論のとりまとめが行われた。事務局に提出された各作業班の報告書は 22、23 の両日開かれた総会において審議され一般討論に付された後、多少の修正を経た上で採択され、会議の全日程を滞りなく終了することができた。会期中は次のような招待会、視察および各種の催しが行われた。

- 石坂建設事務次官招待会（三井クラブ）
- 堺区地区交通規制状況、地下鉄工事、高速道路工事視察
- 日本、米国および、オーストラリアの道路に関する映画
- 宮崎外務省国際協力局長招待会（椿山荘）
- モーターショウ視察
- 米田議長招待会（東京会館）

- 東京都招待国際見本市視察
- 京三機械工業株式会社、および三菱日本重工業株式会社視察
- 日本エカフェ協会招待歌舞伎見物
- 神奈川車体検査場、日産自動車横浜工場視察
- 会議代表主催園遊会（赤坂プリンスホテル）
- 荒木運輸事務次官招待会（第一ホテル）

会議終了後 24、25 の両日にわたって視察と観光を兼ね江ノ島、鎌倉、箱根、富士五湖回遊のバス旅行が行われ、参加者一同を大いに楽しませることができた。

なおインド代表から明年夏ボンベイにおいて道路交通安全に関する研究週間（Study week）を開きたいとの提案があり、一同の賛成を得た。

このセミナーにおいて得られた研究成果を詳細に検討することは別の機会にゆづらなければならないが、エカフェ地域内にある国々はそれぞれ互いに異なつた事情のもとにあり、道路交通の発達度や比重もまたいちじるしく異なつているが、自動車台数と交通量の激増にともなつて、交通の混乱と事故の頻発に悩まされ対策に苦心している点には、共通した重大な関心を払つており、かつ欧米とも違つた特殊な条件下にあつて、相互に深い関係が保たれている点を考えて、参加者一同はきわめて真剣に問題の所在点を探り、解決の具体案を練り、熱心に研究討論を行い、かつ技術の水準を高め、統一ある政策を採用するため協力を惜しまず、努力を払うべき決意が示されたことは、きわめて心強く印象深く感ぜられた。特に車両、交通法規、事故統計の統一、標識信号記号の規格化、関係機関の連絡協力、教育訓練の徹底、事故処理の敏速化などが強く要望され、道路構造の設計、混合交通時の容量、有料道路の適否などの問題が討議され、多くの問題点が明らかにされ、今後の調査研究に具体的な指針を与えたことは、きわめて大きな影響と効果を、もたらすものと確信されるのである。

このセミナーの開催地として特に東京が選ばれたことは、諸外国代表に東京が直面している道路交通上の大きな困難を自ら観察し、体験し、理解する好機会を与えることができ、この会議を一層有効かつ有意義にしたものと認められる。また日本の急速な復興と高い工業水準は、一同の予想以上であつたらしく、みな口を揃えて讃嘆しており、終始好感と好印象をもつて帰国したように感ぜられた。

わが国はすでに国連の正式加盟国として重要な役割を果たしているが、とくにエカフェ地域において指導的立場にあることは、各国代表もひとしく認めているところであつて、日本を信頼しその将来に期待するところはきわめて大きいのであるから、われわれも国際的視野を一層広くし、この期待にそつよう、大いに努力すべく覚悟を新たにしなければならぬことを痛感した次第である。